

# 不登校児童生徒への支援 (フリースクールの設立)

## ～誰一人取り残さない教育の推進と居場所づくり～

### はじめに

全国的に不登校の状態にある児童生徒は増加傾向にあり、文部科学省が実施している「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、令和3年度における不登校児童生徒数は24万5千人に上り、9年連続で増加しています。

その背景には、「生きづらさの低年齢化」が挙げられ、SNSの普及で人間関係のトラブルが起きやすくなっており、表面的には良好な関係を築けているように見えても、見えないところでいじめが行われているケースがあります。また、学校外でも関係性を遮断することができなくなり、いじめから逃れられず苦しんでいる子どもも増えています。そのほかにも、「新型コロナウイルス感染症拡大」による休校等をきっかけに、休むことに対する抵抗感がなくなってしまったり、感染リスクに対する意識が過剰になり、人と会うのが怖くなったりしているケースもあると言われています。

他方では、多様性の受容が求められる時代になり、社会的風潮として不登校そのものをネガティブにとらえない保護者も増えており、学校に行けなくなった児童生徒の新たな選択肢を求めるニーズが高まっています。

当町においても、様々な要因により不登校やひきこもりとなっている児童生徒が一定数いることから、「誰一人取り残さない教育」を推進するに当たり、不登校状態にある子どもたちを孤立から守るため、令和4年9月にフリースクール「Smile Farm (スマイルファーム) かんまき」を設立しました。

「Smile Farm かんまき」では、子どもたちが安心して過ごし、学ぶことのできる「居場所」を提供するとともに、

夢や希望を持ち、困難を乗り越える力を身につけられるよう、一人ひとりに寄り添ったサポートを行うことで、学校復帰や社会的自立を子どもたちと一緒に目指しています。

今回は、不登校児童生徒への支援として、当町が設立した「Smile Farm かんまき」における取組内容などについて紹介します。

### 1. フリースクールの概要等

#### (1) 名称の由来

「Smile Farm かんまき」という名称には、「子どもたちの笑顔を育みたい、つくりたい」という思いが込められています。「笑顔」を英訳した「Smile」と、「育てる」、「つくりだす」という言葉と「上牧町」の「牧」の一字から連想される「Farm」という英単語に準え、その2つの単語を組み合わせて名づけられました。

#### (2) 概要

「Smile Farm かんまき」は、町内小中学校に在籍する児童生徒又は町内に住所を有し、町の区域外の小中学校に在籍する児童生徒であって、不登校等の状態にある児童生徒を対象に、将来的な学校復帰や社会的自立を支援しています。

令和4年9月の設立以降、原則週に3回（火曜日・木曜日・金曜日）午前11時から午後3時まで利用いただけるようスタッフを配置し、「居場所」を提供しています。

施設の場所は、上牧町の中心部にあり、上牧町役場からも徒歩1分圏内に位置しています。近くには小中学校もあり、利用する児童生徒にとっては、小中学校に通う児童生徒と顔を合わせるというリスクもありますが、開始時

間を遅らせることで不安の解消を図っています。

### (3) 支援内容

基本的に毎回、子どもたちの状態や意向を確認し、その日にやることを決めて、それに対してスタッフが寄り添いながら支援をしています。主には、学習支援のほか、絵画、工作、音楽、運動、植物栽培などを行っています。また、定期的に料理体験や校外活動を行ったり、講師や地域のかたを招いてワークショップや交流活動を行ったりもしています。

### (4) 運営・指導体制

「Smile Farm かんまき」では、不登校児童生徒への支援を行うため、専門スタッフを配置しています。不登校児童生徒の精神的なサポートや生活指導、生活相談、学習指導に対応する専門スタッフとして、認定心理士の資格を

有するスタッフや、教員免許を有するスタッフを計3名配置しています。専門スタッフは、いずれも当町が実施している放課後塾「まきっ子塾」の学習指導員も務められていますので、3名とも学習指導には長けています。

また、「Smile Farm かんまき」には専門スタッフのほか、フリースクールの運営や施設・人員管理などを行う運営スタッフを配置し、不登校児童生徒に対し、充実した支援を提供できるように努めています。

## 2. フリースクールの特徴

### (1) 学校の枠組みにとらわれない柔軟な対応

「Smile Farm かんまき」では、原則週に3日(毎週火曜日、木曜日、金曜日)を開校日としています(年末年始・祝日・長期休業期間を除く)が、最初は週に1~2日通うところか

子どもたちの「笑顔を育む」新たな拠点

## フリースクール「Smile Farm かんまき」を設立

現在、全国的に不登校状態にある小学生・中学生が増加傾向にあり、令和3年10月の文部科学省の発表では、「19万人を超え、過去最多を記録したとされています。本町においても、様々な要因により不登校やひきこもりとなっている小学生・中学生が一定数いることから、「誰一人取り残さない教育」を推進するにあたり、そうした子どもたちを孤立から守るため、令和4年9月に「Smile Farm (スマイルファーム) かんまき」を設立しました。当校において、「安心して通い、学ぶことのできる居場所」を提供するとともに、子どもたちが「学びや希望を持ち、困難を乗り越える力を身につけられるよう、一人ひとりに寄り添ったサポートを行うことで、学校復帰や社会的自立を子どもたちと一緒に目指していきます。



不登校児童生徒を取り巻く情勢

悩みを抱える子ども、保護者たちは増加の一途

わが国では少子化の進行に歯止めがかけられない状況が続いていますが、それにもかかわらず、文部科学省の調査によると、不登校児童生徒数は過去最多を記録したとされています。原因は様々ですが、増加の背景には「新型コロナウイルス感染症拡大の影響」と「生きづらさの若年層化」が考えられます。子どもたちにとって本校に通うことが、未来へ踏み出す「第一歩」になりますので、この想いを大切に、それぞれの子どもたちに合った無理のない環境づくりに柔軟に対応します。



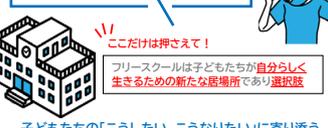
01 QUESTION フリースクールとは?



子どもたちの居場所をつくり、未来を応援

日本におけるフリースクールの定義は、何らかの理由により学校に行けなくなってしまう不登校等の子どもたちが、在籍する学校に併り添って通うことのできる施設とされています。本校が運営するフリースクールでは、学校に通うことができない子どもたちの居場所を提供し、社会とのつながりを感じながら、自立するきっかけ、また将来の夢を見つめつつあつちかむ場所として、学習面と精神面の両側面からサポートを行います。

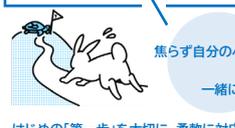
02 QUESTION 適応指導教室との違いは?



子どもたちの「こうしたい、こうなりたい」に寄り添う

適応指導教室は、最終的に不登校を克服して学校に戻すことを目的としていますが、フリースクールは、学校復帰だけではなく、子どもたちの居場所づくりや社会的自立を目的としています。「Smile Farm かんまき」では、子どもたちが安心して通うことのできる居場所を提供するとともに、さまざまな活動、体験、学習支援、相談を通じて、子どもたちのこれから「こうしたい、こうなりたい」に寄り添います。

03 QUESTION 毎日通わないといけない?



はじめの「第一歩」を大切に、柔軟に対応

「Smile Farm かんまき」では、原則週に3日(毎週火曜日、木曜日、金曜日)を開校日としています(年末年始・祝日除く)が、最初は週に1~2日通うところからスタートして、慣れてきたら通学日を増やすこともできます。子どもたちにとって本校に通うことが、未来へ踏み出す「第一歩」になりますので、この想いを大切に、それぞれの子どもたちに合った無理のない環境づくりに柔軟に対応します。

04 QUESTION 利用料はかかる?



原則利用料なし、保護者負担を最小限に

民間のフリースクールでは、一般的に月額利用料が発生しますが、「Smile Farm かんまき」では、保護者負担を最小限に抑えるため、屋外活動への参加などにかかる実費負担を除き、原則利用料の徴収は行いません。(指定される主な費用) ● 屋外活動における交通費、入場料 ● 持込教材費用(教材の持込は任意)

### Smile Farm かんまきの環境

その① 遊休公共不動産の活用  
本校では、地域課題の解決に資する取組を推進するため、これまで遊休状態であった旧民家等を利用し、改修して活用しています。[Smile Farm かんまき]の開校にあたり、子どもたちを支援する事業拠点として、新たに整備された当該施設を活用します。

その② アイランドキッチンの整備  
「Smile Farm かんまき」の大きな特徴のひとつとして、2階フロアにアイランドキッチンが整備されています。これは、食を通じた新たなコミュニティの創出を図るために整備されたもので、本校においても、子どもたちが様々な体験を通じて成長できるよう、料理体験やまちづくり活動などにおいて活用していく予定です。

### Smile Farm かんまきの特徴

その③ 出席扱いになる  
「Smile Farm かんまき」では、学校と連携し本校に登校した場合、原則出席として扱われます。これは、令和元年10月25日付文部科学省通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」において、一定の要件を満たす場合、校長は指導要録上の出席扱いとすることを定めておられることによるものであり、学校復帰や社会的自立に向けて懸命に努力する子どもたちへの支援のひとつとなります。

その④ 官民連携による運営  
「Smile Farm かんまき」は、特定非営利活動法人(NPO法人)「あまのつくりの会」という法人が運営しています。本校では地域との交流やまちづくり活動を通じて、子どもたちに様々な経験と居場所、また将来について考えるきっかけや活動の場を提供することを想定しており、「海川」の清らかな水辺創造計画や「バリアフリー基本構想」の策定など、本町のまちづくりへの参画実績が豊富な当法人と官民連携により事業展開していきます。

11:00	11:10	11:20	11:35	12:15	13:00	13:15	13:30	14:50	15:00
OPEN	準備	脳トレ	学習(復習やプリント) / 日本人スタッフによる英語レッスンなど	お昼休み	サークルタイム	移動	体験活動 with 地域の皆さま 地域活動 / 制作活動 / 料理 / ゲームなど	終礼	CLOSE
<b>④ ある日1日のスケジュール例</b> やりたいことをみんなで一緒に考える 「Smile Farm かんまき」には決められた登校時間や時間割(プログラム)はありません。子どもたちは好きな時間に来て、好きな時間に帰ります。スタッフと子どもたちみんなで一緒に考えて何をやりたいのかスケジュールを決めます。	<b>OPEN</b> スクールがOPENしたら好きな時間に登校して準備をしましょう。最初は脳トレドリルからSTARTです!	<b>学習TIME</b> 宿題やプリント、持込教材などを使ってしっかり勉強。わからないところがあればスタッフが個別にレッスンします。オンライン環境も整備されており、将来的には学校とつなぐことも。	<b>お昼休み</b> お弁当の子も、お店で買ってくる子もみんなで一緒にランチタイム。その後はスタッフも一緒に帰ります。このあとの活動の準備や説明を行ったり、次回以降の予定について話合ったりします。	<b>体験学習</b> 地域の皆さまの協力を得て、まちあるきをしたり、公園でスポーツ、また、近くの図書館に行ったり、町内のお店の見学をしたり、農業体験をしたり、...とスクールの外に出て体験学習をする日もあれば、スクール内ワークショップをしたり、キッチンを使って料理をしたり、アー・作品の制作活動をしたりする日もあります。	<b>CLOSE</b> 終礼を行い、下校します。(15:00) また勉強したいという方は、16:00まで残ってOK!				

(「Smile Farm かんまき」パンフレット)

らスタートし、ある程度慣れてきた段階で利用日を増やすこともできるようにしています。子どもたちにとって当校を利用することが、未来へ踏み出す「第一歩」になると考え、この思いを大切に、それぞれの子どもたちに合った無理のない環境づくりができるよう柔軟に対応しています。

また、基本的に学校の休業日に合わせて、夏休みや冬休みなどの長期休業期間については、開設しないことを考えていましたが、ようやく家以外の場所に居場所や友だちができ、生活リズムも整ってきた子どもたちが、長期の休みにより、そのリズムが再び崩れてしまうことへの懸念を考慮し、長期休業期間中も週1回程度の開校日を設けて運営しています。

## (2) 利用料なし、保護者負担を最小限に

民間のフリースクールでは、月額利用料が発生しますが、「Smile Farm かんまき」では、保護者負担を最小限に抑えるため、屋外活動への参加などにかかる実費負担を除き、利用料の徴収は行っておりません。

### (想定される主な実費)

- 屋外活動における交通費、入場料等
- 持込教材費用（教材の持込は任意）

## (3) 遊休公共不動産の活用

当町では、住民との協働による地域課題の解決に資する取組を推進するため、これまで遊休状態であった旧 JA ならけん上牧出張所（農協）として使われていた建物を改修しました。

「Smile Farm かんまき」の運営に当たっては、子どもたちを支援する事業拠点として、新たに整備された当該施設を活用しています。



(「Smile Farm かんまき」 外観)

## (4) アイランドキッチンの整備

「Smile Farm かんまき」の大きな特徴のひとつとして、2階フロアにアイランドキッチンを整備しています。このアイランドキッチンは、食を通じた新たなコミュニティの創出を図るため、子どもたちが様々な体験を通じて成長できるよう、料理体験やまちづくり活動、イベント等において活用されています。

## (5) 出席扱いになる

「Smile Farm かんまき」では、学校と連携し、当校を利用した場合、原則出席として取り扱います。これは、令和元年10月25日付文部科学省通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」において、一定の要件を満たす場合、校長は指導要録上の出席扱いとすることとされており、学校復帰や社会的自立に向けて懸命に努力する子どもたちへの支援のひとつと考えています。

## (6) 官民連携による運営

「Smile Farm かんまき」は、「特定非営利活動法人らくまち」が運営しています。当校では、地域との交流やまちづくり活動を通じて、子どもたちに様々な経験と居場所、また将来について考えるきっかけや動機づけの機会を提供していきたいという考えから、当町のまちづくりへの参画実績が豊富な当法人と官民連携により事業を展開しています。

### 3. フリースクール設立に込めた思い

前述のとおり、不登校児童生徒数は年々増え続けており、もはや珍しい存在ではなくなっています。しかし、不登校児童生徒の多くは、不安や悩み、後ろめたさみたいなものを抱え、苦しみと葛藤しながら大切な時間を過ごしています。

「Smile Farm かんまき」は、保護者の切実な訴えがきっかけとなり、設立に至りました。不登校の子どもたちが苦しむのと同じように、その家族も苦しんでいます。不登校の子どもたちが安心して、自分らしく過ごせる居場所をつくることで、不登校の子どもたちを、その家族を、その苦しみから救いたい、未来を応援したいという思いが込められています。

### 4. 現状と課題

「Smile Farm かんまき」の利用者については、令和5年9月末現在で7名の児童生徒が登録されています。令和4年9月の設立以降、問い合わせや見学、他自治体からの視察も多くいただくなど反響もありますが、その一方で、利用者数は町全体の不登校児童生徒数の約2割程度にとどまっており、支援を必要としている児童生徒に、支援を確実に提供できているという状況には至っていないところが課題として挙げられます。

また、人間関係の構築においても難しさを感じています。様々な悩みや苦しみを抱えている児童生徒への対応の難しさは開設当初から想定していましたが、継続的な利用が定着しにくい状況になっています。

「Smile Farm かんまき」利用状況(令和4年度～) (単位:人)

	不登校児童生徒数	小学校	中学校	合計	利用率
令和4年度	36	3	4	7	19.4%
令和5年度(9月末時点)	28	2	5	7	25.0%

### 5. おわりに

「Smile Farm かんまき」を設立して、ちょうど1年が経過しました。不登校児童生徒に寄り添い、向き合うなかで、課題を感じる場面も多く、まだまだ発展途上の取組ではありますが、この1年間で、「Smile Farm かんまき」に通う子どもたちの「笑顔」をたくさん見ることができました。この子どもたちの「笑顔」こそが、この取組における最大の成果であり、「Smile Farm かんまき」が、不登校の子どもたちの「居場所」になることができた「証」でもあると考えています。

「Smile Farm かんまき」が不登校の子どもたちの「居場所」となることができた現在、この取組を継続し、発展させていくことが、これからの私たちに課せられた使命であります。今後も、地域や学校、関係機関と連携をとりながら、一つひとつ課題を解消し、子どもたちの笑顔を育む「居場所」であり続けられるよう、その責務を果たしてまいります。